(二十七日夕刊)

磐城新聞
休刊 大祭日ノ翌日 第一第三日曜
定價 一部二錢 一ヶ月六十錢 郵稅十五錢
廣告料 每行六十錢 指定五割增
發行兼編輯印刷人
發行所 平町田町十六番地 磐城新聞社 電話五六四番

閑人歌話(四)

島田忠夫

島木赤彦 つゞき

私が相模の海近く住むやうになつても、歌を作ることは止めなかつたが、以前のやうに發行所へは行かなかつた、友人に、竹内敬雄、守屋喜輝、井上司朗といふやうな一高短歌會の人々と親しくなつたので、色々生意氣になつたのであらう、それに書物も、單純なものでは滿足しなかつた。

つくづくし長き短き生ふる野に再び人はかへることなし

この私の歌は激賞されて赤彦先生からお手紙を頂いた。災害の時、相模の私の家居も災害を蒙つたが、態々辻村直氏を派して慰問して下さつた。お金を十圓頂いたのを覺えてゐる。その後、私の災害の歌五首、非常に讃められた。私が若年アララギで上席に組まれた記憶は、この前後である。新宿驛頭で、信濃から出て來られた赤彦先生は、へき頭『今度の歌は佳いな、島田君』と云はれて、涙が出るほど嬉しかつた。

×

私の童謠の名が有名になつた。アララギの若い人たちが、色々取沙汰する。おもしろくないので歌の發表をやめた。それきり、ずつと後まで赤彦先生にも會はなかつた。この夏、平町で講演したといふ商大の大塚金之助氏は、逸見一郎といふペンネームで、私がアララギを止める前後に最も光つた歌を發表した、獨逸留學以來の齋藤茂吉氏の門下

童謠詩

渡り鳥

市川健次

雲がみがいてとほるから
野の上の空はあをあをと
日ましに澄んでゆくらしい
こがらし落ちてゆくところ
遠い地平をはらはらと
木の葉のやうにわたるもの
渡り鳥だろ南をさして
今日もひとむれ行く鳥みれば
秋も末かよちりぢりと

たより

けふは雨ふり家ごもり
サンフランシスコの友だちに
長いたよりを書きました
日本の秋ももう末です
きいろく染つた銀杏の葉
ひとひら封じて送ります
白い封筒にひさびさに
あをいインキでさらさらと
書く横文字のなつかしさ
あて名も書いて目つむれば
海をへだててアメリカの
遥かな姿がうかびます

で、よく發行所で私は會つた。

×

私の童謠集が出版されることになつて、日暮里渡邊町の吉江孤雁先生の許へ、谷崎といふ雜誌記者と訪ねた、うす寒い春先で私は風邪氣味だつたので弱つた。夜、上野の山下の料亭で飯を喰ひ乍ら、赤彦先生の話をした。その雜誌記者は赤彦先生と面識あつたから、私も、自分の作集が出版されたら、病氣してゐる赤彦先生を見舞ひ、一本を捧げやうと話した。

その日、實にその日赤彦先生は下諏訪高木の自宅、柿蔭山房で亡くなつてゐた夜更、大森の友人の家に泊り、翌朝の新聞で知つた。

×

晩年、小一年お會ひしなかつたが、手紙は亡くなる直前、土肥湯泉から頂いた。私は赤彦先生を追想すると自分のおやぢのやうに懷しく惜しい。全く安心して吾まゝが云へたやうに思ふ。いま未亡人(歌人久保田不二子)とは音信して、色々と御好意を得てゐる。私はかつて『童謠詩人』を島木赤彦追悼號にして、平福百穗のスケッチを表紙となし佛前に供へたのだつたが、つひに悔ゆるものがある

―(今月今日)―

△依田百川歿す、下總佐倉の人川田剛と共に藤森天山門下の二秀才なり、漢學者として小説を書き尚は明治劇壇の率先改良論者である(明治四二)八

侍賢門の戰ひ、清盛父子信頼義朝を討て大に之を破る、重盛が惡源太義平と紫宸殿の櫻を七廻したのもこの戰である(平治元)△天草亂平定(寛平一四)

ラヂオ

仙臺 JOHK

……廿八日(日曜)……

△午前九時Aラヂオ體操
△九時十分A榮養料理(雜煮)榮食研究所
△九時三十分A(子供の時間)末定 陸軍戸山學校音樂隊指揮辻順治
△十時B修養講座(毎日大明寺)郡芳際嶽
△十一時A講演(契丹文化の遺跡を訪ねて)文學博士鳥居龍藏
△正午A時報、氣象通報、今日午後の番組豫告、告知事項
△午後一時三十分全國ニュース
△自〇時四十分、至二時浪花節大會、末定 大和式部、廣澤駒代、村田梅子 自二時五分、至三時三十分 末定 桃中軒若千代、木村年子、天中軒女雲月
△三時四十分A氣象通報、經濟市況
△六時B(子供の時間)物語(時信の初陣)石橋恒雄
△六時三十分放送なし
△七時A全國ニュース(官廳ニュースを含む)ニュース、氣象通報、番組豫告、告知事項
△七時二十五分清元(明烏上下)淨瑠璃清元梅太夫、同清元梅美太夫、三味線清元梅世太夫、同清元次、上調子清元梅一郎
△八時A新小唄、芝浦音頭 唄小力、同長吉、芝浦小唄 唄同駒吉、同富千代、笛あづま、小鼓新駒、大鼓拍子小松、鐘松榮、木琴大太鼓小萬
△八時二十分、義太夫(キシノヒメマツクツワカガミ、岸姫松轡鏡飯原兵衛館の段)竹本素女
△九時A映畫物語(死の花嫁)石野馬城、伴奏指揮紺野利夫
△九時四十分A時報、氣象通報、番組豫告、告知事項

拈華微笑

◇景氣は山の上から。裁判所のボーナス三十割 ◇早くお立ちを願ひ度い感服出來なかつた三〇年 ◇支那そばのチャルメラ。氣のせいか泣き聲に聞ごえる師走の夜 ◇勿來の老婆殺し新山の親子喧嘩妙に尊屬が祟られた年 ◇泣いても吠えてもあと四日 ○……○

講談 赤鞘安兵衛

東京 桃川燕二演 村田月光畫

(一三七)

安兵衛幾らでもある酒を見ながら徒らに咽喉をグウ／＼云はせるばかり、兎角する内に二世を固めの床入りとなつたが安兵衛は娘おてるに手を付けませぬ是は酒で馱々をこねて出て行く量見がまだある、娘を掠物にしたでは申譯がないとの懸念からでございませう、其晩はそれで濟んで夜が明ける、安兵衛は男彌兵衛の前へ出て……『拙お父上に申上げて置かねばならぬ儀がございます』……『ハア何んだへ』斯う親子の縁が結ばつて見れば隱し立は不可ん、何でも遠慮なく云ふがよい』……『手前にはチト惡い癖がございます、是は前以て申上げねばならぬ事でございますが、世間の噂で大概御承知と存じて居りました、今日は念の爲にお斷り申して置かうと存じます』……『大分面倒なやうだが何なと云ふが好い』……『實は手前には酒と云ふ惡い癖がございます』……『ハア酒を飲まつしやるか、それは今が初耳だ』安兵衛締めたりと思つた……『ヘエ如何にも頂戴するので』……『どの位飲まつしやる、一度に』……『先づ三食の度毎に一升位づゝ頂きます』……『ハ、アー升か』彌兵衛安兵衛の顔を眺めてゐるから愈々喜んだ、心中に『此樣子ならば酒で愛想が盡きるな、親爺酒は飲めぬと見える』と内々大喜び……『婿殿、わしは何事もザツクバランが好きだ、體裁を作つたり氣置きをして物を云ふ樣では困る、どうだな一升位しか飲めんかな、もつと飲めそうなものだが』……安兵衛當が少し外れかゝつた、……『ヘエ飲めば二升三升位もやれますが、參つたばかり故先づ一升として置かうと存じまして』……『それが不可んよ、英雄豪傑と云ふものは酒を好む、二升や三升の酒でヘドモドする樣では大きい人物とは云へない、モウツト飲んでは何うだ、いつそ彌兵衛の身代を飲み潰す氣になつてはどうだ』恐ろしい親父だ、身代を飲み潰されては大變と意見するのが當り前だのに、飲み潰す氣でたゝれとは豪いことを云ふものだと安兵衛も少し面喰つた……『イエ其の義御承知下し置かれますなれば別段お斷は申上げなくても好かつたのでございます』……『然うとも／＼むこに來て見れば此家はお前の家だ少しも遠慮に及ばん……是々女共婿殿は御酒が大層お好きだ御飯の度毎にドン／＼燗をして是で最う宜しいと申すまで出す樣に』……『畏まりました』其處で安兵衛は好きな酒が飲める酒をウムと飲んで手古摺らせ樣との策も外れて來たが飲めるので飲み暮らしてゐる、併し酒飲みと云ふものは不思義なもので、貧乏してゐて酒が飲み度い、錢がない、あゝ飲みたい／＼で幾らでも飲むが、茲に酒樽が積んであつて勝手に飲めるとなるとさして飲み度くもない、滿更飲み度くない譯でもないが、大酒はしない茲が人間の意古地なところでございませう……『詰らんなア酒で困らせ樣と思つたのが大きに當が外れた、今日は餘り飲み度くない』考へてゐると……『むこ殿／＼』『されば父上』……『御存じであらう拙者は江戸お留守居役毎度お留守居のお交際で茶屋通入りを至すが、扨酒が思ふ儘のめず飲めなくては巧く交際が出來ぬ、黒田家の山田、池田家の大友などは先づ五六升は一度に飲む、飲みさいすれば座敷が持て、面白いし、此間に難しいお役目も易々と出來ることになる酒はまことに結構なものだ、殊にお留守居役と來ては愈々酒でなくては不可ぬ、此頃見るご酒がだん／＼飲めなくなる樣だモット稽古してのまなくては不可ない』……『ハア』安兵衛愈々呆れた。

●平素の御愛顧に酬ゆる謝恩大賣出し
●此の幸ひを賣切れぬ中にお需め下さい

歳末奉仕 大賣出し 十二月廿四日より三十日まで一週間

平素の良品廉價主義を徹底した驚異的奉仕値段

期間中特價品

上等白メリヤスシャツ	三十錢
最上ラクダメリヤスシャツ	八十錢
純毛メリヤスシャツ	一圓五十錢
純毛糸アンダーセーター	一圓八十錢
ネルワイシャツ	八十錢
流行ネクタイ	五十錢
ファー中折帽子	五圓五十錢
二重底實用靴下 三足	三十錢
純毛厚地靴下 一足	二十五錢
女學生厚地靴下 三足	一圓
冬メリヤスサル又 二枚	五十錢
上等ハンカチ 一打箱入	九十錢
柄タオル 半打	三十五錢
純毛腰卷	五十錢
細純毛婦人着	一圓
上等メリヤス時ジバン	七十錢
婦人毛糸手袋	十八錢
毛糸チャン／＼	八十錢
六文 六半 絹天足袋	五錢

スタンダード靴會社製 リーダー靴宣傳特價 學生實用靴 六圓 紳士流行型靴 八圓

◎その他流行實用品豊富廉價提供◎

◎流行ショール陳列特賣◎
ボアショール 一圓八十錢
黑ショール 一圓

平町二丁目 中野洋品店 電五三番

七五三お祝品●年末年始 御贈答用賣出し

餅の取り粉には米の粉製の『とり粉』に限る
とり粉 百匁六錢 大經濟品
うき粉 百匁七錢 大不經濟
平町土橋 福麥 マルマン商店 電話四八九番

痔の最高内服藥 ダイサン錠
鼻のクスリ チクノール錠
平町五丁目角 山野邊藥局

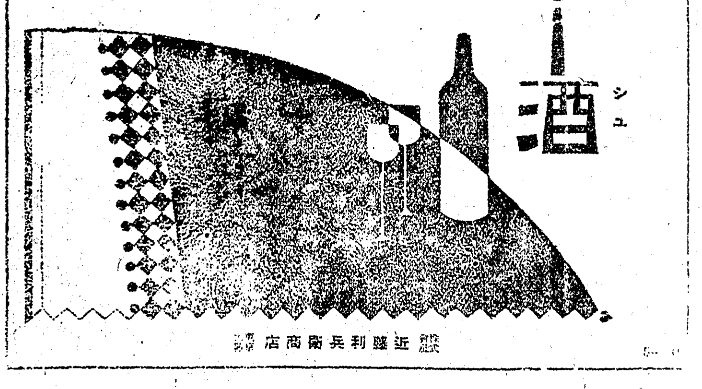
鼻耳咽喉科專門 日本醫大院長醫學士 鈴木正男
齒科口腔外科 日本齒科科長醫學士 鈴木喜政
下谷區入谷町二九一 入谷改正通り東交番前
鈴木醫院

新マツダ斯瓦入 電球三割値下

十五ワット・二十五ワット	三十錢
四十ワット・六十ワット	三十五錢
百ワット	六十五錢

一個デモ御電話ガアレバ早速御屆ケイタシマス
是非御用命ヲ願マス
特約店 大谷時計病院 電球部 電話十九番

蜂ブドー酒
慰安によし 健康によし 團欒によし
美味・滋養 蜂ブドー酒



近藤利兵衛商店

學生外套特賣
酷寒・强雨ニモ耐へ生地
ヤ・仕立百・バーセ・の
黒ラシャ外套特價提供
中學用(極上)8圓50錢より
小學用(同)5圓50錢より
全部頭巾付
あかや洋服店 平二 電203

吉田眼科病院 平町紺屋町

感服出來なかつた 三〇年は去り行く？
胡鼠泥が一番の陰慘な統計
犯罪件數から見た世相樣々

一九三〇年は深刻な不景氣のどんづまり農村は極度の疲弊にあひぎ失業者は職を求める力さいなく飢てゐる商店街はどこも戰線異狀ありへとへとに疲れ切つてゐる、この陰慘な不況の暗黒街を行く本縣下に於ける犯罪はどうか、縣刑事課に於ける十一月末までの統計を見ると素晴らしいものだ、發生件數が實に一萬三百四十二件これがみんな殺人、強盜、窃盜、放火、詐欺、横領、傷害と云ふのだから驚く、昨年同期に比し八百五十二件の增加窃盜のみ四千二百五十七件前年に比し八百二十五件の增加犯罪の動機は何れも食はんが爲め生きんが爲めのこそ泥がその大部分をしめてゐると刑事課では語つてゐる、次が智能犯の詐欺横領恐喝の二千四百六十件犯罪は年を追ふごとに增して來るのではないかと思はれる刑事課の話しによるとこの犯罪增加は不景氣と失業によるものだと云つてゐる、然し檢擧數も馬鹿に成績がよく一萬百七十八件、前年に比し千三百三十四件から多いこの犯罪發生檢擧を細別して見ると左の如くであるがなほ道路で小便をたれたり無燈火で自轉車に乗つたりなどして即決科料に處せられたものが六千六百三十六件、金額にして一萬九千九百餘圓、また密淫賣やその他で拘留處分にされたもの二百五十件であつた

	發生	檢擧
殺人	二九	二五
放火	二一	二六
強盜	三八	二七
窃盜	四二五七	四一一七
詐欺恐喝	一九三八	三一四八
横領	五二二	五九六
賭博	二九三	三〇四
傷害	三六五	三六五
其他	二八八八	二九〇四
計	一〇三四二	一一五一二

令旨奉戴記念 巡回講座開設
石城郡下六町村で 靑年の自覺を喚起す

本縣では令旨奉戴十周年記念として本年は特に靑年修養の心要を認め現下の世局に鑑み、堅實なる思想の涵養に努めるところあつたが更らに明春一月十二日から三月九日まで縣下六十八ヶ所に靑年講座を開設して左記五問題を提出して大いに靑年の自覺を喚起することになつた石城郡內の開催日割次の如し

一、自己の修養に關し工夫實行せる體驗
二、自己の職業に關し改善を加へたる事項
三、家庭生活に關し改善を加へたる事項
四、靑年團が其の施設經營上實施したる結果特に有効なりと認むる事項
五、最も感激せる善行美談

△注意事項
一、研究問題に關する意見發表は一人一問題に限り發表時間は十分以內
二、意見發表をなさんとする者は豫め其の所屬靑年團長を經て研究題目を具し會場に當てたる學校長に申出づべし
三、意見發表をなしたるものは其研究せる要望を記し縣に提出すべし
四、各町村靑年團に於いては出席者名簿を調製し當日會場係員に提出すること
五、聽講者は當日辨當並筆記用具を携帶すること

△一月四日石城郡內鄕校△五日錦校△六日江名校△七日高久校△八日大浦校△九日平窪校以上坂田敎育主事

官廳御用納

平町の各官廳では今二十七日午後夫々本年に於ける御用納めの式を擧げた

在軍遙拜式
元旦松ヶ岡で

在鄕軍人石城分會では元旦午前九時から松ヶ岡公園で恒例に依り左記式順序に依り遙拜式並に新會員入會式を擧行すると
一、午前九時忠魂碑前集合
二、忠魂碑の祭除奉仕
三、勅諭、勅語捧讀
四、遙拜式、五萬歳三唱

遊技場課稅決定
麻雀玉突その他
平町にも該當者多數

從來何等の取締規則なかつた遊技取締規則については其筋では過日來全國各府縣から參考資料を集めこれが草案考究中であつたがいよいよ纒まり今二十七日付縣報を以つて公布し明春一月一日から實施されることになつたが同規則は第一條より十八條まで丶適用範圍は最近漸く盛んになつたマージャンを始め玉突、玉轉、卓球、碁、將棋、釣魚その他これに類似する遊技で規則の大要は大體左の如くである
一、營業者は凡てその都度所轄署に許可を受けること
一、從來の營業者は本令により認可を受けたるものと看做す但し一ヶ月以內にこの旨屆出でをなすこと
一、料理店、飲食店、待合茶屋等と同一棟內に於いては之れを許可せず
一、詐欺、恐喝、賭博、密賣淫等の前科ある者には許可せず
一、遊技大會をなす場合はその都度所轄署に屆出でを要す
一、營業時間は夜十二時までとす
一、器具殊にコロップ類は消毒すること
一、煙草の類の如きは銃にて着彈効力に影響するものは使用することを得ず

勿來の老婆殺しは 十年以下の懲役
平支部の判決に 不服で即日控訴

勿來町助川秋雄(一七)假名に關る尊屬强盜凌辱殺人判決言渡しは今二十七日午前十一時から裁判所平支部で中島裁判長係り武田檢事關與永野、眞木兩辯護士立會上開廷前回公判に於ける檢事の求刑の通り兇行當時僅入の目的を以つて土藏下を堀つた穴が大人の出入りに相當せぬ程度に小さかつた事、東北帝大黒川博士鑑定に係る加害者のものと覺しき排泄物が其朝の秋雄の食物と關係ある事、兇行の手口から觀て家庭の事情を知悉してゐる者なる事等の三點を綜合して秋雄が眞犯人として無期懲役に處すべきであるが少年に依り情々酌量し少年法を適用五年以上十年以下の懲役に處する旨中島裁判長より言渡しがあつた尙秋雄は右言渡しを不服なりとして即刻控訴した

四倉信組長

四倉信用組合に於ては廿六日理事會を開催滿場一致を以て吉田彌十郎氏同組合長に決定せりと

鰯の大漁で 四倉町連日賑ふ

四倉濱は近來鰯の大漁で仲町新町方面の婦女子達は連日鰯あみに忙殺されて居る

四倉局扱賀狀

四倉郵便局に於て去る二十日より廿六日迄取扱つた年賀郵便ハガキは八千八百九十二枚であると

焚火に轉げ込み 母子無殘の燒死
病餘のめまひから
植田町左官職の家族

植田町後町左官職豐妻八桑ちゑ(三五)は二十五日午前十一時頃三男久藏(二)を背負ひ夕食炊事中危て傍に焚火をしてゐる爐に轉倒母子共見るも無殘の燒死を遂げた原因はちゑは長らく病床に伏して居り最近快方に向つたので當日起き上り炊事の仕度をせんものと爐端で働いてゐるうち俄に眩暈し爐中に轉落したものである

廿割のボーナスに 北叟笑む裁判所員
給仕さんが五六十圓位
不景氣知らぬ歳末風景

冷酷な不景氣風は貧弱なサラリーマンのボーナスに迄祟り各官廳諸會社とも前年より二割減若しくは三割減となつたので是れを當込み旣に使ひ込んでゐる各サラリーマンの家庭では如何して此暮れを過ごすかと悲鳴を揚げてゐる向もある位であるがひとり裁判所關係は昨二十六日所員全部に對し書記級が二十三割以上三十割、雇級が三十割以上三十割、廷丁さんや給仕まで手取り五六十圓のボーナスにありついたので何れもホク〳〵顔で不景氣風何處吹くと空嘯きの不景氣時代に他の羨望の的となつてゐる

無罪の判決に對し 檢事から控訴
新山町半谷寛の
尊屬傷害致死事件

双葉郡新山町半谷寛(四二)に係る尊屬傷害致死事件は去十九日平支部で中島裁判長係り山本、關口判事陪席武田檢事關與千葉、眞木兩辯護士立會の上求刑六年に對し證據不充分の爲め無罪の判決言渡しあつた旨旣報の通りがあるが武田檢事は昨二十六日宮城控訴院へ控訴したと

北目區長決定

平町新設區字北目町方部第二十七區々長は新井滋藏氏、同代理者は鳥居金太郎氏に決定した

川上書記葬儀

植田登記所主任川上保鍋氏の葬儀は今二十七日午後二時植田町の自宅出棺常春院に於て執行したが會葬多數盛葬であつた

師走の寒夜に訴ふる 支那そばの哀調
ここにも絡る不況の陰影
團扇バタ〳〵老爺は愚痴る

凍ひつくやうな寒さに、外套の襟を立てさせ、あはたゞしい下駄音が大道に神經質に高鳴る夜、頰はしいラヂオの反響もなくなり、寢靜まる頃、生活を荷車一臺に乘せ一種の哀調さへも思はせる、支那そば屋の吹く笛の音は、藝術的な響きさへ思はせる、湯氣立つ一杯のそばの連想は、空腹をいやが上にそゝる、此の流しの支那そばは今尙は都會色を偲ばせるに充分である

◇

『おつつあん賣れるか』
『いいやどうも不景氣で困りますよ』
『だがこの商賣はよその商ひみたいにたゝられないだらうね』
『いや〳〵どうして、不景氣には變りないですよ、景氣のいゝ時には『たま』が二百から出てゐたが近頃は六十出ればいゝ方ですからね それに種物がちつとも出ないから商賣戰線香しからずですね』
『シューマイはどうだね』
『勿論、初めは賣つてゐましたがこの頃ではからつきし駄目になりました、腹のたしにならないものに十錢出すよりはそば一杯の方が三十年型で實質的だと云ふのですねあはゝゝ』

深夜の唯一の食堂にもこうして近代色はたつぷりご出てゐる。シューマイよりそば一杯なる程三十年の暮にふさはしい

◇

たゝ寒々、あつ〳〵と云ふ景とところを一杯くれと三十人は湯氣立つ、御馳走を待つ酒もいいがこの不況ちあこれに限ると、向ふの自動車ガレーヂの助手君がふるへ乍ら註文してゆく、三十年を語るおツつあんは手づかみに手さばきよく料理にかゝる

◇

ゴト〳〵音を立て乍らのエキゾチックな笛に客を呼び作ら『くらし車を運ん』でゆく、夜ふかし雀や通り客を呼ぶこの商ひにも近代色は多分にうかゞはれ、赤井嶽嵐は生活の嵐と共に身にしみる

社告

本號を以て本年の最終刊ご致します

投檜 寄書歡迎

逝くエロ。グロの年

一九三〇年——それは誠にエピクリアズムのエロ、グロナンの百パーセントの年でした。

金解禁で明けた昭和五年は全く裸の年でしだ。裸と云つてもエロテックの肉体露出の方面ばかりではありません。何もかも暴露時代だつたと云ふのです。頻々として起つた疑獄事件、文藝方面の絶えざる悶着、教育家の犯行、宗教の暴露、思想問題、學生爭議、勞働爭議、新戰術たる煙突男、××黨解消問題、はては臺灣生蕃の反逆、濱口首相の遭難、陸海軍大演習、大鑑觀式、大觀兵式、豆相大震災。——いやはや新聞種は頻發する殺人事件と共に濱の眞砂の様に絶えぬものであります。

一九三〇年は今や政治、經濟、社會、何んと殆んどすべての戰線に驚くべき異狀と波紋とを乘せて競馬で云へば最後の直線コースをゴール目指してウルトラ、スピードで突進してゐる處です、カフエーでキッスされた事や酒場で女給の××に手を觸れたエロ、グロ又はその他の一切の穢を清算してめでたい……三一年の辛未新年が目前に忍び寄つてゐます。

さて『その後に來るもの!』？。は何でせうか？

（北見晴雪）

古新聞を讀む

◇自分のやうな不遇者に取つては到底その日〳〵の新聞を讀むことは出來ない結局一日、二日と遲れたものを役人方、あるひは餘裕ある知人から拜借する外はない。

◇今では習慣になつてしまつて借りに行くことには何の氣がかりもなくなつた

◇時たま汽車中の客となる、一紳士が私の前に堂々と構えて新聞を讀んでゐたしばらくすると、つと立上つて行く。あとに讀み散らした新聞が殘る。

◇自分はそれを拜借の慾望に充たされたが、持主はいつ歸るとも知れぬので遠慮したその中車掃夫が來る多くの紙屑と一緒に持ち去つてしもふ。

◇一日おくれ、二日おくれの新聞を借り讀みしてゐる私には、この瞬間それがどんなに勿體なく思はれることか。（川前　農夫）

赤井風

◇水は方圓の器に從ひ、藝者は類を以て集まるとかや、さるほどに新田町のほとり品澤なる藝者屋ありけり、姐さんの小光に似通つて抱えの藝者が皆んなまさか九貫八百匁◇およしなさいよう、蝶々さんなんか達分小さくないわよう、ざつと要塞砲兵位ある處へ今度はお腹の方へ肉がついて來たからそりや立派よ。アラいやだ十月過ぎるとまた瘦せるんだつて◇藝者屋が此頃御神燈を掲げ出したのは好い、切り火を浴び褄を取つて格子戸をくゞるには、ムキ出しの電燈では氣分がそぐはない、アノ御神燈に神佛混合の紋を散らして方々へ義理を立てるは氣が多い、一說には藝者か蔭むからだとはどうかね………!。

□———□

明日の吉凶

舊曆十一月九日　新曆十二月廿八日

△一白の人 平和ご眞面目は此日を守る唯一の心情たり△二黒の人 六分通り殘り成つて四分に苦心することあり△三碧の人 人の長を採り我が短を補へば徳日に集まる△四綠の人 追々と良き運に向ふ日自重してあせるなかれ△五黄の人 思ひを靜め秩序を亂さずおもむろに進み進むべし△六白の人 急速の發展を望まず自重陰忍すれば萬事吉△七赤の人 向ふ河岸の花を見る如く手に入れがたき日

森下の大景品大賣出 景品總額金貳千圓也
商品は絶對優良品絶對安價
御買上高金拾錢ヨリ大景品附
一百人一首(京製練習用かるた)　一組金五十錢
一ベビーカメラ(附屬一揃九品付)　一組金九十錢
一セル張優等大羽子板　一板金三十錢
一ヒコーキ印優等(ゴムマリ六吋)　一個金廿五錢
一貳寸上厚鐵コマ　一個金貳拾錢
一國產優等太毛糸(一オンス)　一個金拾二錢
一正紺ヌイ糸大綛　一把金五錢
一極上白糸大綛　一把金參錢
一凧。大羽子板。大双六。大かるた。鐵コマ　大金五錢均一
◎金貳圓以上御買上ニ對シ大景品ノ外昭和六年度ノ大形カレダンー呈上
大賣出期間 十二月廿五日ヨリ 六年一月五日迄
磐城平町一丁目 森下商店 商號 豆屋

子供服 經濟にして優美 お子様方のお祝着に 一圓五十錢
完全な防寒 流行の中心 ポアーシヨール 一圓二拾錢
ツルヤ 平町四丁目 電一四〇

夜間診療
胃腸 内科 十二指腸病 專門 内科部
梅毒 淋病 皮膚病 婦人病 專門 外科部
松村胃腸性病科醫院 (平南町電話一〇一七番)

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋 和洋銅物 釜屋商店
磐城國平町五丁目 電話九番 九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番

確實敏捷は の生命なり

病中年末年始缺禮 高岡唯一郎